



東京日々新聞

九百十九号



上總國市原郡新生村の佐久間
十郎左二門の其辺ありて云

あそこら下らぬ富家ありその本

家の佐久間忠七と相倒し其財産と

押領せんと謀て折と伺ひ待し忠七は淫徳

ある男あまふ十郎左二門の妹と奸通し

たるを其妻これと聞つて怒り堪へず抜刀と提して十郎左二門が

宅に來りその妹小切て掛り敷を所の疵と負せける幸ひ

小浅傷られ命は多分助りし初め彼の十郎左二門は暗に是

と喜ひ忍ち一計と謀し此度の始末と縣官に報知せし忠七は

西人とも忍ち捕縛し就たじし付一笑凌あり此辺貧窮あり

者のもよむ六年々貢租の金不足支ゆりて遂に十郎左二門が

貧ひ物と成り生活行立むきん以て村民とも日よ彼地此

地は京畿とて訴狀を作り十郎左二門が暴行奸計と數て

縣應に告控せんとするの孫子と聞知り十郎左二門

大の驚き早その手廻しすべしと

思ひ走りて縣治に至り只何とぞ煩

りし御事宜にて歩行々邑の縣吏の

彼と同姓の老此藤と云ふは欲み下らんとす

の趣あり必らず其罪と贖かんとの意あり

べと誤認して遂に是を為し忠七は三

人と救し十郎左二門案は相違し益々

憂悶しれども今さら詮方無しとす



蕙齋

芳幾



人形具足屋

渡辺彫栄

